

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100715		
法人名	医療法人 山村会		
事業所名	あさひ		
所在地	高知県高知市下島町11番7号		
自己評価作成日	令和元年9月6日	評価結果 市町村受理日	令和元年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、母体法人の介護複合施設の1階にあります。レストランや地域交流室を併設し、2階は介護付有料老人ホーム、3階は住宅型有料老人ホームで、平日の午前中は3階でいきいき百歳体操に参加するなど、利用者同士が自由に交流しています。

地域交流室では、ボランティアによるフラダンスや手芸などでのふれあいの機会に恵まれています。レストランは一般に開放しており、家族や友人との食事はもちろん、地域住人との交流も可能です。

電車通りの北側にはすぐ図書館があり、書籍を借りて読書が楽しめます。馴染みの商店をはじめ、近くの大型量販店にも歩いて買物に出かけられ、立地条件に恵まれています。

毎年秋に開催する「輝祭り」は、地域の集いの場として楽しんでもらえるイベントに成長しています。また、施設正面玄関前には公園ができることになっており、新たな集いの場となって、より地域住民とのつながりが増える事を期待しています。

協力医である母体法人の病院との24時間医療連携により、利用者の体調不良時や急変時にも速やかな対応ができるよう体制を整えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=3990100715-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和元年9月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

真新しい清潔感のある事業所で、1階に事業所、レストラン、地域交流室があり、2階、3階は有料老人ホームになっていて、利用者同士の交流がみられる。

地域活動が活発であり、「旭まつり」や事業所の「輝祭り」など、地域住民と交流する機会が多く、地域との連携ができていることから、災害対策でも併設施設合同で防災訓練を実施し地域の協力も得やすくなっている。

母体法人は医療機関であり、事業所に看護師も常勤で配置しているため、利用者、家族に医療面での安心感を与えている。

管理者はじめ職員は、理念にある個別性、ぬくもりと笑顔を大切に介護を心がけ、利用者のできることを、したいことを探り当てることに努めている。利用者、家族の思いを汲みとり、家族の協力も得て、その人らしく暮らせる、期待の持てる事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:すずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各スタッフルームに理念と基本方針を掲示しており、ユニット会や申し送り時等で確認と共有をして、業務にあたっている。	「入居者の個別性を大切に、ぬくもりと笑顔のある介護を目指す。」という趣旨の理念があり、職員間で話し合いの機会を設けて、実践につなげるようにしているが、介護複合施設「輝」全体の理念であり、事業所独自の理念にはなっていない。	併設の有料老人ホームと事業所では、細かい点でケアに違いがあることから、事業所の実情に合った内容を職員同士で考えることで、直接日々のケア提供に反映できる理念とすることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は、併設施設の利用者と気軽に交流しており、また、近隣には商店や図書館があつて、日常的に地域との交流やつながりが感じられるよう、支援している。	1階には地域交流室やレストランがあり、地域住民が気軽に立ち寄っている。地区の行事にも参加しており、施設の輝き祭りにも近隣住民の参加があつて、日常的に地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所見学、入所申し込み時に現在家庭で困っていること等を聞き、支援や福祉サービス等への利用に関する助言にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故、行事の報告や、職員の研修参加状況について、家族、関連機関との意見交換ができてきている。また、家族には議事録を送付して、報告している。	会議では事業所の報告と参加者からの意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう努めているが、サービス評価で明らかになった課題の検討や、改善に向けての取り組みの報告や協議がない。	実際に行っている課題検討や改善に向けての取り組みを運営推進会議で報告し、協議することで、会議で出された意見をサービス向上に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見や助言を得て、サービス向上と問題解決の改善に取り組んでいる。	市担当者には運営推進会議を通して事業所の実情を伝えると共に、市社会福祉協議会や高齢者支援課などにも、制度上の解釈や、日々のケアで気になることなどが気軽に相談できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間、早朝を除き施錠していない。帰宅願望等が見られたときは傾聴し、ときには近所を一緒に散歩して、本人の気持ちを尊重した寄り添う対応を心掛けている。2ヶ月に一度、身体拘束の勉強会を実施している。	2ヶ月毎に身体拘束廃止の勉強会を行い、職員は何が身体拘束にあたるかを理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの外出傾向は把握できており、声掛けや付き添いの対応をしている。また、転倒や誤嚥などのリスクに関しても、家族等との話し合いを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が中心となって高齢者虐待の勉強会を行い、日頃の支援や言動等を職員と振り返り、虐待、拘束の防止と弊害について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、日常生活自立支援事業や成年後見人制度の利用者はいない。今後、管理者、職員とも制度と事業の役割に関する研修会を計画し、学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等の関係書類の読み合わせをし、疑問点に答え、関係部署と連絡確認しながら、日常的に起こり得る得る事案を例に挙げて、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所便りに利用者の日々の様子や活動、今後の予定を記載し、家族来訪持や電話での会話の中で意見、要望を確認している。また、運営推進会議後に参加した感想や、言いにくいことの有無などについても聞くように努めている。	できるだけ家族の思いを把握するよう、訪問時や電話連絡時に意見、要望を聞くように努めている。しかし、年2回の家族会はあるものの、家族同士での話し合いには至っていない。	家族会等では、家族の忌憚のない意見が聞けるようにし、運営に反映させることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会で日々の業務を振り返り、問題点や解決策等を話し合い、改善していく取り組みを行っている。また、人間関係や心配事の相談があったときには、必要に応じて個別にヒヤリングを行って、対応している。	毎月のユニット会で職員の意見、要望を聞き、必要に応じて施設長に伝えている。排泄、行事、レクリエーション、記録、入浴等の委員会があり、日々の業務が円滑に実施されるよう工夫している。また、必要に応じて個別に相談を受ける体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望や、事情に沿った勤務シフトの作成に努めている。研修への参加やレポート提出等で職員個々の努力を評価する機会を設け、賞与や昇給に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験年数や、技量に応じて積極的に外部研修に参加し、また母体法人内での医療、福祉、感染、衛生等の研修会に多く参加できるよう、工夫している。自主的に研修へ参加したい職員の希望を募る取り組みもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市西部地域グループホーム連絡会で交流を深め、情報交換をしている。必要に応じて、近隣の事業所と連絡を取り合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分でできることは可能な限りしてもらおう働きかけ、一緒になって行い励まし合いながら、ここで生活したいと思ってもらえるよう、関りを繰り返している。職員と利用者が向き合い、傾聴と対話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症発症前後の生活の変化を聞き、不安や要望に耳を傾けながら、家族が目指す本人の入所生活の実現を一緒に考えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で担当者会を開き、その人らしく実行可能な安心、安楽な支援計画を立案している。また、協力医、訪問歯科、理美容店、母体病院の24時間連携体制等のサービスを必要に応じて調整し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人生経験や、生きた時代の背景に目を向け、できることを尊重し、料理づくりや畑での野菜の世話等、利用者からも教えてもらいながら、一緒に生活をしているという意識を持って、生活の場づくりに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一人ひとりの利用者が抱える悩みや問題を職員間で解決するのではなく、家族と共有し、相談している。散髪や医療機関受診が苦手な利用者は家族が立ち会ったり、同行してくれたりと、協力体制がとれている。また、家族の思いを聞くようにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族、兄弟、親戚、友人が気軽に面会に来られる雰囲気づくりに努め、居室で気兼ねなく過ごしてもらえるよう配慮している。散歩に出かけた際には、馴染みの商店に立ち寄るなどして、地域とのつながりを維持している。	利用者が今まで大切にしてきた家族、兄弟、親戚、友人等の関係が途切れないよう、訪問しやすい環境をつくっている。近隣に昔からの行きつけの商店があり、散歩時には立ち寄ることで、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や、利用者間の関係性に配慮し、両ユニットそれぞれ集いやすい場所を設けて、レクリエーションや洗濯ものたたみ等を行いながら、会話を楽しむなどして関りを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、家族の了解を得て入院先にお見舞いに行っている。サービスが終了しても立ち寄ってもらえるよう声をかけ、いつでも相談し合える関係性が続けられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の間ではあるが、利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう、日常の様子から情報を得て、また、家族の思いやニーズを聞き取って、支援に活かせるよう努めている。	ほとんどの利用者は意思表示が出来るので、職員の声掛けを工夫して、思いや意向を聞き取り、記録している。本が好きな利用者は近隣の図書館で本を借りて読んだり、短歌、習字、畑仕事が好き等、その人に合った暮らしが継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後に得た情報だけでなく、本人、家族にこれまでの人生歴や生活歴を聞きながら、日々の様子から情報を得ている。また、関わりのあった関係機関からも情報を得られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の趣味や特技、好きなレクリエーション、活動をするを主体としたケアプランを作成し、活動の幅が広げられるよう努めている。職員や利用者同士が話しに行く姿勢を持つことで、発語や会話も増えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人、家族に意見要望等を確認し、計画評価は担当職員が行って、モニタリング、報告の取りまとめ、ニーズの抽出は計画作成担当が行うようにしている。	本人、家族の意向を踏まえ、計画作成担当者が担当職員や他の職員からも意見を聞いて介護計画を作成し、3ヶ月毎に見直している。利用者の趣味や好きなレクリエーションも盛り込まれ、個々に応じた介護計画になっている。本人の状態に変化があったときは、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常の様子が分かるよう記録することを心掛けているが、どう関わったかの記述内容が薄く、介護計画と連動した記述が不十分である。今後も施設内外の研修に参加し、介護計画の見直しに活かしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	加齢に伴う筋力の低下や病気の進行、発病を早期に発見できるよう日常生活の様子から注視し、必要に応じて協力医でのリハビリテーション等を行い、事業所内では役割分担を検討し、一人でも多くの利用者が生き生きと活動ができるよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店やスーパー、図書館の利用や、施設周辺の散歩への道すがら花を観たり、近隣住民と会話を交わすなど、地域に出掛けていくことが定着した。昨年は旭地域の芸術祭に利用者が作成した絵や壁画等を展覧し、鑑賞にも行って楽しんだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続希望する利用者は家族同行で継続受診しており、受診結果は家族から確認している。突発的な発熱やケガ等の対応は協力医を受診し、その際にかかりつけ医からの情報も伝えるようにしている。	かかりつけ医を協力医とする利用者は職員が付き添い、以前からのかかりつけ医を希望する利用者は家族の付き添いだが、家族が行けないときは、職員が代わっている。家族の付き添い時には利用者の状態をサマリーで提供している。受診結果は個人記録に保管し、情報共有をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には常勤の看護師がおり、介護職員が利用者の心身の変化をその都度報告、相談して、重篤になる前に医療機関を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、入院に至る経緯と経過を情報提供している。また、家族の了解を得て管理者が家族と同居して医師から病状を聞き、情報を共有している。入院中は相談員や看護師と連携し、受け入れ体制を整えて、スムーズな退院の実現に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化時や終末期のあり方について説明し、看取りについての事前確認書に署名捺印してもらって、同意を得ている。また、そのときの状態、状況に合わせて、医師、家族、事業所で話し合いの場を持ち、方針を確認して、支援している。	契約時に看取り事前確認書について説明し、同意書に署名押印をもらっている。医師、家族、事業所等とその都度話し合いをして、看取りに取り組んでおり、看取りの実績もある。職員にも事前説明を充分にして、職員のメンタルケアに配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を、連絡体制、手順が分かるように両ユニットのスタッフルームに掲示している。緊急時や事故発生時には、優先順位を考え、連絡を取り合うよう日頃から話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、夜間や地震、洪水を想定した訓練も母体法人の施設全体で行っている。また、地域住民にも呼びかけ、炊き出し訓練も行っている。	年2回、消防署の立会で施設合同の防災訓練を実施している。炊き出し訓練時には町内会長、民生委員も参加している。避難場所は近隣の公共施設になっているが、災害レベルに応じて施設の上の階に避難するようになっている。施設全体で、3日以上以上の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時の声掛けが周囲に聞こえないよう心掛け、無断で居室への入室はせず、利用者一人ひとりを尊重した言葉掛けや、対応に努めている。	ユニット会や勉強会で利用者の尊重やプライバシー保護を周知徹底している。慣れや親しさなどで、気になる言動があれば管理者がその都度注意し、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	周囲を気遣いながら、職員は利用者の思いや要望が引き出すコミュニケーションに意識して取り組んでおり、本心と反対の思いを示す利用者には、本心を引き出す会話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けの後も利用者の反応や返答を待ち、ゆとりをもって対応する関りを通じて、本人が過ごし方を切ることができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の要望だけでなく、職員からも整髪や散髪の提案している。利用者には、居室内の鏡を見せて身だしなみに気を付ける意識を持ってもらい、自ら整容できるよう働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回、手作り料理の日を設けている。利用者の食べたいもの、昔食べていたものを聞き、食材を切る人、味付けする人、味見する人、盛り付けする人などの役割分担をして料理を楽しんでいる。それ以外の日は、外注業者の配食を受けている。	食事は外部業者からの配食だが、毎週木曜日を利用者中心の手作り料理の日と決め、献立から仕入れ、調理を全員で楽しんでいる。また、誕生日などの行事では特別食があり、時々おやつ作りも行って、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じて食事形態や量を変更するなどの対応をして、栄養状態がすぐれない利用者は家族と看護師と相談したうえで、栄養補助食品等を利用して、栄養バランスを図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員が、食後の口腔ケアを介助と見守りで行っている、毎月往診歯科医に質問状を提出し、助言を得てユニット会開催時に口腔衛生研修会を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔と排泄パターンを把握し、排泄の声掛け誘導を行っている。また、病状に問題がない利用者への、日中のトイレ排泄支援も行っている。	排泄チェック表をもとに個別の時間誘導を行い、夜間もポータブルトイレ利用などで、トイレでの排泄支援を行っている。布パンツ使用で排泄自立した利用者もいる。排泄委員は、利用者に応じた排泄用品を選んで提供するなどの支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	両ユニットともオリゴ糖を使った水分ゼリー、麴を使った麴水等を作成し、起床時の白湯を提供して、水分摂取量アップの工夫をしている。また、屋内外の散歩や体操を行い動量を増やすなど、便秘予防と自力排便促進に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は午後に設定し、また、長湯を好む利用者は希望に沿うように対応している。発汗量が多くなる夏場は入浴回数を増やし、冬場は足浴も行うなど、柔軟に対応するようにしている。	車いすでも利用できる特殊浴槽も用意されている。週2回入浴の利用者が多いが、夏場は回数の増を促すようにしている。入浴拒否の利用者には、時間をずらし、職員を交代するなど工夫で対応できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の歯磨きの後に就寝準備を始めているが、特に消灯時間を決めることはしていない。ホールや自室でテレビを観たり、読書したりと、思い思いに過ごしている。就寝リズムがつかれない利用者には傍らに寄り添い、安心して就寝できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬が変更された場合などには看護師が内容を説明し、状態観察の必要性を指導しているが、職員全員が利用者個々の薬を理解するまでに至っていない。看護師が作成した服薬一覧表の内容を確認して、服薬支援に役立てている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活け花を活け、受付やホール内に飾ったり、畑の水やりや草引き等の役割を持ってもらったり、利用者同士で風船バレーや歌、百人一首等の遊びを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と職員と一緒に新聞を読んだり、広告記事を見て食材の品定めをし買い物に出かけたり、祭りへの参加、季節ごとのドライブレクなどで、集団外出する取り組みを行っている。	季節の花見や外食、買い物、近隣の行事への参加など、多くの外出の機会をつくっている。これまで、地区の都市再開発工事で周囲への散歩が難しかったが、工事も終わり、庭に畑ができたので、今後は日常的な散歩等の外出に取り組むこととしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋や移動スーパーの販売、外食の機会もあり、金銭管理ができていなくても、利用者自身に財布を持ってもらうようにしている。中には、自分で購入した商品の金額をみて所持金を確認し、買い物できる利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて事業所の固定電話や携帯電話を利用して、家族と通話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両ユニットで日の差し込み方が異なり、それぞれ違った雰囲気がある。廊下には利用者が作成したぬり絵や、日々の生活の様子、外出時の写真や記事などを貼って、事業所生活を振り返ることができるよう工夫している。居室入り口の飾り棚には、各々趣向を凝らした飾りを置いている。	利用者の活けた季節の花、壁面には習字、大人のぬり絵、行事の写真などがあり、ほのぼのとした雰囲気をかもし出している。家具の配置にも適度な距離感があり、利用者がゆったりくつろげるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは、すずらんユニットでは「集いのソファ」、ひまわりユニットでは「テレビ・新聞等を見る、家族と会話するソファ」として使用している。食卓のテーブルは、誕生日会や集団レクリエーション等の際には、用途に応じてレイアウトを変えて使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、家族の協力を得て本人が使い慣れた家具や思い出のある品物や、写真等を持ち込んでもらい、居心地の良い居室が提供できるようにしている。中には、仏壇やベットを置いている利用者もいる。	使い慣れた椅子が置かれ、家族の写真、自分で書いた短歌や習字などが飾られて、個々の利用者が安心して暮らせる居室づくりがされている。また、家具は室内での動線に気を配った配置とするなど、安全面の工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新規入所の利用者が自室やトイレ等の場所が分からなかったり、混乱することがないように、立体的な張り紙をしたり、声を掛けさり気なく誘導、見守りするなどの配慮をしている。		

ユニット名:

すずらん

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:ひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各スタッフルームに理念と基本方針を掲示しており、ユニット会や申し送り時等で確認と共有をして、業務にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は、併設施設の利用者と気軽に交流しており、また、近隣には商店や図書館があつて、日常的に地域との交流やつながりが感じられるよう、支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所見学、入所申し込み時に現在家庭で困っていること等を聞き、支援や福祉サービス等への利用に関する助言にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故、行事の報告や、職員の研修参加状況について、家族、関連機関との意見交換ができています。また、家族には議事録を送付して、報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見や助言を得て、サービス向上と問題解決の改善に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間、早朝を除き施錠していない。帰宅願望等が見られたときは傾聴し、ときには近所を一緒に散歩して、本人の気持ちを尊重した寄り添う対応を心掛けている。2ヶ月に一度、身体拘束の勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が中心となって高齢者虐待の勉強会を行い、日頃の支援や言動等を職員と振り返り、虐待、拘束の防止と弊害について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、日常生活自立支援事業や成年後見人制度の利用者はいない。今後、管理者、職員とも制度と事業の役割に関する研修会を計画し、学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等の関係書類の読み合わせをし、疑問点に答え、関係部署と連絡確認しながら、日常的に起こり得る得る事案を例に挙げて、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所便りに利用者の日々の様子や活動、今後の予定を記載し、家族来訪持や電話での会話の中で意見、要望を確認している。また、運営推進会議後に参加した感想や、言いたいことの有無などについても聞くように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会で日々の業務を振り返り、問題点や解決策等を話し合い、改善していく取り組みを行っている。また、人間関係や心配事の相談があったときには、必要に応じて個別にヒヤリングを行って、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望や、事情に沿った勤務シフトの作成に努めている。研修への参加やレポート提出等で職員個々の努力を評価する機会を設け、賞与や昇給に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験年数や、技量に応じて積極的に外部研修に参加し、また母体法人内での医療、福祉、感染、衛生等の研修会に多く参加できるよう、工夫している。自主的に研修へ参加したい職員の希望を募る取り組みもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市西部地域グループホーム連絡会で交流を深め、情報交換をしている。必要に応じて、近隣の事業所と連絡を取り合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分でできることは可能な限りしてもらよう働きかけ、一緒になって行い励まし合いながら、ここで生活したいと思ってもらえるよう、関りを繰り返している。職員と利用者が向き合い、傾聴と対話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症発症前後の生活の変化を聞き、不安や要望に耳を傾けながら、家族が目指す本人の入所生活の実現を一緒に考えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で担当者会を開き、その人らしく実行可能な安心、安楽な支援計画を立案している。また、協力医、訪問歯科、理美容店、母体病院の24時間連携体制等のサービスを必要に応じて調整し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人生経験や、生きた時代の背景に目を向け、できることを尊重し、料理づくりや畑での野菜の世話等、利用者からも教えてもらいながら、一緒に生活をしているという意識を持って、生活の場づくりに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一人ひとりの利用者が抱える悩みや問題を職員間で解決するのではなく、家族と共有し、相談している。散髪や医療機関受診が苦手な利用者は家族が立ち会ったり、同行してくれたりと、協力体制がとれている。また、家族の思いを聞くようにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族、兄弟、親戚、友人が気軽に面会に来られる雰囲気づくりに努め、居室で気兼ねなく過ごしてもらえるよう配慮している。散歩に出かけた際には、馴染みの商店に立ち寄るなどして、地域とのつながりを維持している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や、利用者間の関係性に配慮し、両ユニットそれぞれ集いやすい場所を設けて、レクリエーションや洗濯ものたたみ等を行いながら、会話を楽しむなどして関りを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、家族の了解を得て入院先にお見舞いに行っている。サービスが終了しても立ち寄ってもらえるよう声をかけ、いつでも相談し合える関係性が続けられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の間ではあるが、利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう、日常の様子から情報を得て、また、家族の思いやニーズを聞き取って、支援に活かせるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後に得た情報だけでなく、本人、家族にこれまでの人生歴や生活歴を聞きながら、日々の様子から情報を得ている。また、関わりのあった関係機関からも情報を得られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の趣味や特技、好きなレクリエーション、活動をすることを主体としたケアプランを作成し、活動の幅が広げられるよう努めている。職員や利用者同士が話しに行く姿勢を持つことで、発語や会話も増えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人、家族に意見要望等を確認し、計画評価は担当職員が行って、モニタリング、報告の取りまとめ、ニーズの抽出は計画作成担当が行うようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常の様子が分かるよう記録することを心掛けているが、どう関わったかの記述内容が薄く、介護計画と連動した記述が不十分である。今後も施設内外の研修に参加し、介護計画の見直しに活かしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	加齢に伴う筋力の低下や病気の進行、発病を早期に発見できるよう日常生活の様子から注視し、必要に応じて協力医でのリハビリテーション等を行い、事業所内では役割分担を検討し、一人でも多くの利用者が生き生きと活動ができるよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店やスーパー、図書館の利用や、施設周辺の散歩への道すがら花を観たり、近隣住民と会話を交わすなど、地域に出掛けていくことが定着した。昨年は旭地域の芸術祭に利用者が作成した絵や壁画等を展覧し、鑑賞にも行って楽しんだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続希望する利用者は家族同行で継続受診しており、受診結果は家族から確認している。突発的な発熱やケガ等の対応は協力医を受診し、その際にかかりつけ医からの情報も伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には常勤の看護師がおり、介護職員が利用者の心身の変化をその都度報告、相談して、重篤になる前に医療機関を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、入院に至る経緯と経過を情報提供している。また、家族の了解を得て管理者が家族と同居して医師から病状を聞き、情報を共有している。入院中は相談員や看護師と連携し、受け入れ体制を整えて、スムーズな退院の実現に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化時や終末期のあり方について説明し、看取りについての事前確認書に署名捺印してもらって、同意を得ている。また、そのときの状態、状況に合わせて、医師、家族、事業所で話し合いの場を持ち、方針を確認して、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を、連絡体制、手順が分かるように両ユニットのスタッフルームに掲示している。緊急時や事故発生時には、優先順位を考え、連絡を取り合うよう日頃から話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、夜間や地震、洪水を想定した訓練も母体法人の施設全体で行っている。また、地域住民にも呼びかけ、炊き出し訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時の声掛けが周囲に聞こえないよう心掛け、無断で居室への入室はせず、利用者一人ひとりを尊重した言葉掛けや、対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	周囲を気遣いながら、職員は利用者の思いや要望が引き出すコミュニケーションに意識して取り組んでおり、本心と反対の思いを示す利用者には、本心を引き出す会話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けの後も利用者の反応や返答を待ち、ゆとりをもって対応する関りを通じて、本人が過ごし方を切ることができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の要望だけでなく、職員からも整髪や散髪の提案している。利用者には、居室内の鏡を見せて身だしなみに気を付ける意識を持ってもらい、自ら整容できるよう働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回、手作り料理の日を設けている。利用者の食べたいもの、昔食べていたものを聞き、食材を切る人、味付けする人、味見する人、盛り付けする人などの役割分担をして料理を楽しんでいる。それ以外の日は、外注業者の配食を受けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じて食事形態や量を変更するなどの対応をして、栄養状態がすぐれない利用者は家族と看護師と相談したうえで、栄養補助食品等を利用して、栄養バランスを図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員が、食後の口腔ケアを介助と見守りでやっている、毎月往診歯科医に質問状を提出し、助言を得てユニット会開催時に口腔衛生研修会を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔と排泄パターンを把握し、排泄の声掛け誘導を行っている。また、病状に問題がない利用者への、日中のトイレ排泄支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	両ユニットともオリゴ糖を使った水分ゼリー、麴を使った麴水等を作成し、起床時の白湯を提供して、水分摂取量アップの工夫をしている。また、屋内外の散歩や体操を行い動量を増やすなど、便秘予防と自力排便促進に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は午後に設定し、また、長湯を好む利用者は希望に沿うように対応している。発汗量が多くなる夏場は入浴回数を増やし、冬場は足浴も行うなど、柔軟に対応するようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の歯磨きの後に就寝準備を始めているが、特に消灯時間を決めることはしていない。ホールや自室でテレビを観たり、読書したりと、思い思いに過ごしている。就寝リズムがつかれない利用者には傍らに寄り添い、安心して就寝できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬が変更された場合などには看護師が内容を説明し、状態観察の必要性を指導しているが、職員全員が利用者個々の薬を理解するまでに至っていない。看護師が作成した服薬一覧表の内容を確認して、服薬支援に役立てている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活け花を活け、受付やホール内に飾ったり、畑の水やりや草引き等の役割を持ってもらったり、利用者同士で風船バレーや歌、百人一首等の遊びを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と職員と一緒に新聞を読んだり、広告記事を見て食材の品定めをし買い物に出かけたり、祭りへの参加、季節ごとのドライブレクなどで、集団外出する取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋や移動スーパーの販売、外食の機会もあり、金銭管理ができていなくても、利用者自身に財布を持ってもらうようにしている。中には、自分で購入した商品の金額をみて所持金を確認し、買い物できる利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて事業所の固定電話や携帯電話を利用して、家族と通話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両ユニットで日の差し込み方が異なり、それぞれ違った雰囲気がある。廊下には利用者が作成したぬり絵や、日々の生活の様子、外出時の写真や記事などを貼って、事業所生活を振り返ることができるよう工夫している。居室入り口の飾り棚には、各々趣向を凝らした飾りを置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは、すずらんユニットでは「集いのソファ」、ひまわりユニットでは「テレビ・新聞等を見る、家族と会話するソファ」として使用している。食卓のテーブルは、誕生日会や集団レクリエーション等の際には、用途に応じてレイアウトを変えて使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、家族の協力を得て本人が使い慣れた家具や思い出のある品物や、写真等を持ち込んでもらい、居心地の良い居室が提供できるようにしている。中には、仏壇やベットを置いている利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新規入所の利用者が自室やトイレ等の場所が分からなかったり、混乱することがないように、立体的な張り紙をしたり、声を掛けさり気なく誘導、見守りするなどの配慮をしている。		

ユニット名:

ひまわり

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない